

ファーマフーズと東北大学大学院医学系研究科が共同研究講座を開設 難治性がんに対する革新的な抗体医薬品の研究開発を加速

株式会社ファーマフーズ（本社：京都市西京区、代表取締役社長：金武祚、以下「ファーマフーズ」）と東北大学大学院医学系研究科（本部：宮城県仙台市）は、2024 年 4 月に共同で「PFI抗体医薬共同研究講座」（代表研究者：加藤幸成教授）を開設しました。

加藤幸成教授は、がん特異的抗体の作製技術「CasMab[®]（キャスマブ）法^{※1}」により、これまで数多くの抗体作製・企業導出に成功し、その一部は、すでに臨床治験に進んでいます。

がんは死因の第 1 位で、総死亡の約 3 割を占めています。昨今は、がんに対する様々な治療方法が開発され、5 年生存率は年々伸びてきているものの、膵がんなどの難治性がんに関しては、未だに有効な治療方法が開発されていないことが社会課題になっています。

ファーマフーズがもつ独自の抗体作製技術「ALAgene[®] technology（アラジン テクノロジー）^{※2}」と、加藤幸成教授がもつ「CasMab[®]法」を融合させることにより、難治性がんに対する革新的な抗体医薬品の研究開発を加速し、社会課題の解決に向けて取り組んでまいります。

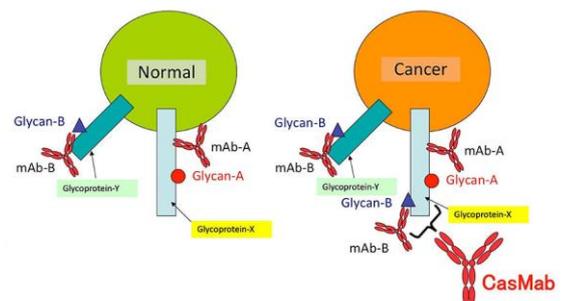
※1 CasMab[®]（キャスマブ）法

Cancer-specific monoclonal antibody（がん特異的抗体）を取得する方法。2014 年に東北大学の加藤幸成教授が世界で初めて発表した（商標：第 5690178 号）。がん細胞と正常細胞に発現する膜タンパク質のアミノ酸配列が 100%同一であっても、がん細胞に特徴的な構造の違いを認識する。

※2 ALAgene[®] technology（アラジン テクノロジー）

ファーマフーズ独自のニワトリ由来抗体作製技術。哺乳動物では作製困難な標的に対する結合力の高い抗体をニワトリから取得し、抗体医薬品として開発するプラットフォーム技術。

CasMab[®] (Cancer-specific mAb)



ALAgene[®]